

揖斐川水源地域ビジョン策定会議（第5回）

配付資料一覧

資料1 揖斐川水源地域ビジョン策定会議（第5回） 議事次第

資料2 揖斐川水源地域ビジョン策定会議 委員名簿

資料3 揖斐川水源地域ビジョン策定会議（第5回） 出席者名簿

資料4 「揖斐川水源地域ビジョン（仮称）」中間とりまとめ（案）

参考資料1 平成18年度試行について（案）

参考資料2 「揖斐川水源地域ビジョン（仮称）」中間とりまとめ（案）
の骨子

参考資料3 徳山ダムシンポジウム（チラシ）

資料 1

揖斐川水源地域ビジョン策定会議（第5回）

日時：平成18年3月29日（水）13:30～15:30

場所：KKRホテル名古屋 3F 「芙蓉の間」

議 事 次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 議 事

(1) ビジョンの中間とりまとめ（案）について

(2) その他

4 閉 会

資料2

揖斐川水源地域ビジョン策定会議 委員名簿

【学識等委員】

《座長》	高木 不折	名古屋大学 名誉教授
	安藤 辰夫	自然学総合研究所 副所長
	葛葉 泰久	三重大学生物資源学部 教授
	佐藤 正孝	名古屋女子大学 名誉教授
	下垣 真希	ソプラノ歌手・金城学院大学 講師
	重網 伯明	シルバー総合研究所 理事
	戸松 修	岐阜大学応用生物科学部 教授
	中村 浩志	信州大学教育学部 教授
	水尾 衣里	名城大学人間学部 助教授

【産業等委員】

	大野 睦彦	社団法人中部経済連合会 常務理事
	森 泰朗	揖斐郡森林組合 組合長
	三輪 幸恵	財団法人ふじはし 理事長
	渡辺 信行	NPO揖斐環境レンジャー 理事長

【行政等委員】

	小川 敏	大垣市 市長
	渡邊 俊司	愛知県企画振興部 部長
	浦中 素史	三重県地域振興部 部長
	遠山 周二	名古屋市上下水道局 技術本部長
	加藤 元之	中部森林管理局岐阜森林管理署 署長

【事務局等委員】

	細見 寛	中部地方整備局河川部 部長
	奥田 邦夫	岐阜県建設管理局 局長
	宗宮 孝生	揖斐川町 町長
	井手 義博	独立行政法人水資源機構中部支社 支社長

(敬称略 学識・産業委員五十音順)

資料3

揖斐川水源地域ビジョン策定会議（第5回） 出席者名簿

分類	氏名	所属
学識等委員	高木 不折	名古屋大学 名誉教授
	葛葉 泰久	三重大学生物資源学部 教授
	下垣 真希	ソプラノ歌手・金城学院大学 講師
	重網 伯明	シルバー総合研究所 理事
	戸松 修	岐阜大学応用生物科学部 教授
	中村 浩志	信州大学教育学部 教授
	水尾 衣里	名城大学人間学部 助教授
産業等委員	大野 睦彦	社団法人中部経済連合会 常務理事
	森 泰朗	揖斐郡森林組合 組合長
	三輪 幸恵	財団法人ふじはし 理事長
	渡辺 信行	NPO揖斐環境レンジャー 理事長
行政等委員	渥美 智康	大垣市 技監（代理出席）
	早川 吉夫	愛知県企画振興部 水資源監（代理出席）
	辻 英典	三重県地域振興部 資源活用室長（代理出席）
	遠山 周二	名古屋市上下水道局 技術本部長
	立入 純夫	中部森林管理局岐阜森林管理署 流域管理調整官（代理出席）
事務局委員	細見 寛	中部地方整備局河川部 部長
	岩田 礼一	岐阜県建設管理局 水資源課長（代理出席）
	宗宮 孝生	揖斐川町 町長
	井手 義博	独立行政法人水資源機構中部支社 支社長

資料 4

「揖斐川水源地域ビジョン（仮称）」

中間とりまとめ（案）

平成 18 年 3 月 29 日

揖斐川水源地域ビジョン策定会議

目 次

「揖斐川水源地域ビジョン（仮称）」中間とりまとめ（案）

はじめに.....	1
ビジョンの目標像.....	2
1 ビジョンの背景及び目的.....	2
2 目標像.....	2
ビジョンの計画内容.....	3
1 基本方針.....	3
2 取組方策.....	4
ビジョンの推進方策.....	6
1 推進方針.....	6
2 推進体制の整備.....	6
3 試行の取組.....	6
おわりに.....	7

はじめに

徳山ダムは、昭和46年の実施計画調査着手以来、35年を経てダム本体の雄姿が現れ、平成18年秋には試験湛水を、そして平成20年3月には完成を迎える予定となっています。

この徳山ダムは、浜名湖の約2倍に当たる6億6千万立方メートルの日本一の貯水容量をもつダムとなるとともに、ダム上流域は、岐阜県及び揖斐川町が取り組む山林公有地化事業により、豊富な植物相、希少野生生物をはじめ、豊かな自然環境をもつ水源地域として保全されることとなります。

このような中で、「揖斐川水源地域ビジョン策定会議」では、昨年10月に会議が設立されて以降、5回の会議と3回の小会議を開催し、ビジョンの内容を検討してきました。

徳山ダムが完成すると、木曾川水系連絡導水路の具体化により「水」を介してダムの恩恵が広く下流域に及び、また、山林公有地化事業により、旧徳山村の人々が代々暮らしの中で守り育ててきた豊かな森林が保全され、水源林等としての恩恵も人々が広く享受できることとなります。また会議では、その事業過程の中で、「徳山村」というひとつの村の歴史が終わるといふ現実があったことに対し、深く想いを巡らすべきことを認識してきました。

このような認識の下、会議では、ダム建設に伴い恩恵を受ける人々が、その恩恵に感謝し、流域全体で取り組むビジョンにしたいと考え、ダムそのものの機能はもとより、流域の豊かな自然環境を流域の貴重な財産と捉え、旧徳山村の人々をはじめ、水源地域だけではなく、治水・利水の及ぶ広域の人達が、「みんな」で守り、育て、自然そのものや歴史から学び、多くの人が行き交い、将来に向けてみんなで活かすようなことができればと思ひ議論を進めてきました。

この度の中間とりまとめは、これまでの会議で議論してきた内容をいったん整理しておくという意味でとりまとめを行ったものです。更にいろいろな意見をいただき内容を充実させるとともに、ダム完成前から、また、できるところから、ビジョン策定に向けた活動の「試行」に取り組みながらより実効性の高いビジョンとして修正・改良を図っていきます。

ビジョンの目標像

1 ビジョンの背景及び目的

徳山ダムは、「揖斐の防人^{さきもり}」として揖斐川流域47万住民の生活を脅かす洪水の被害を防御し、「中部の水瓶」として揖斐川の豊かな恵みを、利水や発電などに有効に活用するダムである。また、清らかな水の流れを守るための目的も併せもつ多目的ダムであり、完成すれば貯水量日本一のダムとなる。これらは、将来の木曾川水系連絡導水路と一体となって、中部圏に広がる流域にとって、「生命」「暮らし」「産業」を支える骨格となる。

徳山ダムでは、ダム建設の過程で、ダム上流域の野生動植物の保護・保全の観点から、付替道路のトンネル化をはじめ、いろいろな環境保全対策を講じてきている。さらに、他のダムでは類をみない規模で山林公有地化事業の取組を行っており、森や水と深く関わった旧徳山村の住民が守り育ててきた森林が、豊かな自然環境をもつ水源林として保全されることになる。いわば、旧徳山村住民をはじめ、広域の人達が主役として関わる、日本一大きなダム湖と広大な水源林が織りなす「水と森の自然博物館」として、「日本一の水と森」からなる活動の舞台が出現することになる。

こうした状況を踏まえ、ビジョンでは、ダムが担う新たな機能と旧徳山村の歴史と生活が培ってきた水と森を、流域全体の財産として捉え、水源地域だけでなく、治水・利水の及ぶ広域の人達が参画し、その保全と利活用を図っていくことを基本的な使命とする。また、広域的な視点も踏まえ、多くの人たちの交流と連携を促進しながら、徳山ダムの大切さへの認識や旧徳山村民466世帯への感謝の気持ちの下、流域みんなの思いが相互に支え合う流域文化の創造に向けた取組を展開し、水源地域の持続的な活性化を図っていくことを目指す。

2 目標像

上記の背景及び目的を踏まえ、「揖斐川水源地域ビジョン(仮称)」においては、次をビジョンの目標像とする。

日本のどまん中を支える日本一の水と森が織りなす流域文化の創造
- みんなで守り、学び、やすらぐ、日本一元気な流域を目指して -

ビジョンの計画内容

1 基本方針

の2に掲げた目標像に向けて、以下の基本方針の下、ビジョンの取組方を具体化する。

(1) 揖斐の防人・中部の水瓶としての上流域の環境を、みんなで守り育てる

[内 容]

「水のつながり」により徳山ダムの恵みは三県一市に広く及ぶことを踏まえ、ダム湖及び上流から下流までの河川の水環境、多様な動植物が生息・生育する豊かな森林、森と水が織りなすダム湖の景観等を流域共通の財産と位置付け、ダム機能や流域環境の保全に取り組む。特に、徳山ダム上流域については、日本一のダムの建設と日本一の規模の山林公有地化事業により、人間が近くに居住しない新たな自然環境が出現することになるが、他に例をみない事例として研究、データの蓄積等に取り組むとともに、水源地域だけでなく、流域みんなが参画した保全のための取組を展開する。

(2) 自然の叡智や風土など水源地域そのものを「水と森の自然博物館」として、学びやすく

[内 容]

自然を活かし、自然に学ぶ観点から、水源地域全体を「水と森の自然博物館」とし、学び、やすらぎ、交流する場等として活用する。森の四季の変化や星空（目）、おいしい水（舌）、梢のささめきや「静けさ」（耳）、おいしい空気（鼻）、清冽な風（肌）など、五感に訴える地域環境そのものをまるごと活かした取組を展開する。これらを基本とし、水源地域の持続的な活性化という観点から、流域みんなが参画する様々な取組を通じて、多くの人たちが行き交う場所とする。

(3) 流域ぐるみで協働し、流域文化の創造と展開を図る

[内 容]

旧徳山村の住民の方々の尊い協力の上に徳山ダムが成立すること、また、治水に加え、徳山ダムの機能が「水のつながり」を通じて広く三県一市の圏域にまで及ぶこと、さらには、水源地域の水質保全への取組等について、流域全体で認識を共有し、上下流の双方の思いが体現される流域文化を展開する。また、「まず知ってもらおう」ための広報など、多様なPRに取り組むとともに、水源地域だけでなく、流域住民、流域外の周辺地域、行政機関、教育関係者、NPO、ボランティア団体、民間企業など、縦横の広がりを念頭に、多くの主体が参画した流域文化を育む。

2 取組方策

1 に掲げた基本方針を踏まえ、ビジョンを進めるに当たっての取組方策を以下の5本の柱によって構成する。

(1) 日本のどまん中を支える大切な自然環境の保全

(主な取組方向)

流域及び水源としての水環境を保全するため、個々の水質対策や濁水対策などを行うとともに、下流河川の清流の確保や河川環境の改善に取り組み「川らしさ」を復活

ダム上流域において水源保全・水質保全・土砂流出防止等の重要な機能をもつ森林を保全するとともに、森林の管理、森林の整備等を推進

クマタカ等の希少生物をはじめ、野生動植物の自然生態系を保全するため、ダム上流域における生息・生育環境の保全に加え、福井県・滋賀県・岐阜県を跨ぐ連続的な野生動植物の生態系の緑の回廊を形成

(2) 日本一の水と森に学び、やすらぐ場としての活用

(主な取組方向)

総合学習や生涯学習の一環として、ふれあい体験を通じた自然環境保全の重要性やダムを通じた治水・利水の機能などを学ぶとともに、資料館や語り部等による水源地域における歴史・文化や暮らしなどを学べる場を提供

広く三県一市の経済界を含めた諸団体と連携のもと、豊かな自然環境を活用して、環境等を軸に据えた研修の場等としての利活用を推進

広大なダム湖の出現による微気象の変化、それに伴う植生等の変化や遷移、あるいは水や土砂などの循環系等の学術研究のフィールドとしての活用をはじめ、調査・観測データの蓄積等を図りつつ、「ここならではの」の自然環境に関わる調査・研究を拠点的に展開

水辺空間や森林空間での遊びや森林浴・ウォーキング等を通じて、貯水容量日本一の徳山ダム及びダム湖の魅力を核とした健康とやすらぎの豊かな自然環境を提供

(3) 広域で継続的な交流・連携の推進

(主な取組方向)

NPOや一般住民等が広域的に交流・連携し、植樹や間伐の体験等を通して、より良い環境の創造を推進

揖斐川上流域を教育・学習の場として活かし、小中学生の水、森林等の自然環境について理解を深めるため、教育関係者をはじめ、三県一市等の上下流の連携を展開

滋賀県とは303号の八草トンネルで、福井県とは417号の冠山トンネルで繋がることになり、この交通ネットワークを利用し県境を越えた相互交流・相互発展のため、広域連携を推進

(4) 水源地域の魅力を活用した産業の振興

(主な取組方向)

人々の交流・連携を呼び起こすとともに、交流・連携を通じた産業活動の活性化を図る観点から、現存する施設の有効活用も図りつつ、魅力ある地域づくりを推進

地域の伝統・文化等の地域資源を活用するとともに、既存の水源地域内外の観光拠点を結ぶネットワークを形成し、地域の魅力を高め、人々が楽しめる場づくりを推進

また、水源地域の魅力を特徴づける特産品等の開発、水や森林等を活用した産業の起業等を展開

(5) みんなが支え、みんなを支えるための取組の推進

(主な取組方向)

中部における徳山ダム及び水源地域の治水・利水上の役割、必要性、効果、あるいは、おいしい水の源といった内容や、保全活動やイベント等の水源地域の取組等についての情報発信を推進

より一層の上下流交流を推進するため、地域資源のPRや日本一のダムの雄大さのPR等により、水源地域及び上流域における魅力や価値をアピール

水源地域のPRや環境活動を維持発展させるため、指導者用マニュアルや案内人用ガイドマップ等の作成や研修、指導者・案内人・語り部などの人材の養成・育成を推進

気持ち良くやすらぐことの出来る空間環境を維持するため、来訪者に対しても、危険行為、不法投棄、貴重種等採取防止等に関するマナー・モラルの向上対策を推進

自然環境の保全、学習、研究、健康、交流や情報発信、人材養成等の諸活動に必要な上下流みんなが活用できる拠点づくり及びそれらを支える仕組みづくりを推進

ビジョンの推進方策

1 推進方針

「揖斐川水源地域ビジョン（仮称）」について、以下の方針に基づき積極的に推進する。

(1) 徳山ダムに係る上下流の関係者が連携しながら取り組む

ビジョンの推進を図るため、関係者が、情報や意見を交換しつつ、相互の連携を図りながら、揖斐川流域の保全と利活用に向けた様々な取組を進めていく。

(2) 地域住民グループやNPO法人等の推進の担い手を育成する

ビジョンの効率的、効果的な推進を図るため、地域住民やNPO法人等の推進の担い手を育成する。

(3) ダム事業の完了前から、実施可能なものから順次、ビジョンの実現に向けた取組を進める

ダム事業完了後、速やかにビジョンの推進が図れるよう、また策定中のビジョンが実施可能なものか確認等を行うため、さらに新たな取組み方策を生み出すために、ダム事業の完了前から、推進体制の整備、取組方策の試行を行う。

2 推進体制の整備

1の推進方針に基づき、準備会を設置し、推進協議会等の体制の整備や推進の担い手の育成等を図っていく。

(1) 推進準備会の設置

ビジョンの効果的、持続的な推進を図るため、推進準備会を設置し、推進協議会等の推進母体の活動内容やメンバー等の検討を行い、ビジョン推進体制の整備を進める。

(2) 推進の担い手の育成

ビジョンを効率的・効果的に推進するため、水源地域だけでなく、治水・利水が及ぶ広域の人達の参画を得るという観点から推進の担い手を育成する。

3 試行の取組

ビジョンの検討・策定と並行して、策定中のビジョンの取組が実施可能かどうか、また、推進体制がうまく機能するかどうか等について検証等するため、試行を行う。

おわりに

冒頭で述べたように、この度の間とりまとめは、これまでの会議で議論してきた内容をいったん整理しておくという意味で、あくまでも中間的なものとしてとりまとめを行ったものです。

私どもビジョン会議では、引き続き、ビジョン策定に向けた活動の「試行」への取り組みの検証や、各界・各層の意見の把握等を行いながら、これまでダム建設に協力いただいた方々に感謝するとともに、徳山ダムができて良かったといわれるような、日本一のダムに相応しい「揖斐川水源地域ビジョン（仮称）」を検討していきたいと考えています。

そのためには、関係者はもとより、広く流域の住民の皆様のビジョンへの参画を含め、NPO法人や教育関係者、企業など、各界・各層のご理解とご協力をいただく必要があると考えています。

本ビジョンの検討と具体的展開を通じて、水源地域の持続的な活性化に加え、より広域の圏域における理解と協力の拡大に、少しでも寄与できればと、心より祈念し、中間とりまとめの「おわりに」とします。

平成18年3月29日

揖斐川水源地域ビジョン策定会議

平成 18 年度試行について（案）

推進準備会で協議・調整（誰が、いつ、実施するか等）しながら、行動計画の作成など、できるところから、以下のような取組を進める。

1 保全の取組

ゾーニング計画の策定

廃棄物投棄への対応の検討

2 利活用の取組

教育・研修の場としての活用

1) 小学生の体験学習

2) 企業の体験研修

3) 一般のダム見学会

大学の研究の場としての活用

交流の場としての活用

イベント(シンポジウム、マラソン、ウォーキング、川サミット等)の開催

広報活動の実施

1) 「徳山ダムリレーフォーラム」開催

定期的に、マスコミ、上・下流、研究者、経済界、教育機関、観光客等と順次意見交換を行っていく。

2) H P、メルマガ

3) 広報誌、関係機関紙

「揖斐川水源地域ビジョン(仮称)」の中間とりまとめ(案)の骨子

目標像
日本のどまん中を支える日本一の水と森が織りなす流域文化の創造
- みんなで守り、学び、やすく、日本一元気な流域を目指して -

基本方針

- (1) 揖斐の防人・中部の水瓶としての上流域の環境を、みんなで守り育てる
- (2) 自然の叡智や風土など水源地域そのものを「水と森の自然博物館」として、学びやすく
- (3) 流域ぐるみで協働し、流域文化の創造と展開を図る

推進方策

- (1) 徳山ダムに係る上下流の関係者が連携しながら取り組む
- (2) 地域住民グループやNPO法人等の推進の担い手を育成する
- (3) ダム事業の完了前から、実施可能なものから順次、ビジョンの実現に向けた取組を進める

取組方策

- (1) 日本のどまん中を支える大切な自然環境の保全
〔流域及び水源としての水環境の保全とともに、森林の保全、管理等を推進
野生動植物の自然生態系の保全及び県境を越えた生態系の回廊を形成〕
- (2) 日本一の水と森に学び、やすく場としての活用
〔総合学習、生涯学習や研修の場を提供
自然環境に関わる調査・研究の展開や、健康とやすらぎのための自然環境を提供〕
- (3) 広域で継続的な交流・連携の推進
〔NPOや一般住民等が広域的な交流・連携を推進
上下流等三県一市に及ぶ広域的な交流・連携や、県境を越えた相互交流等の広域連携を推進〕
- (4) 水源地域の魅力を活用した産業の振興
〔魅力ある地域づくりや観光拠点のネットワーク形成により、地域の魅力向上と人々が楽しめる場づくりを推進
水源地域の特徴ある特産品開発、水や森林等を活用した起業等の展開〕
- (5) みんなが支え、みんなを支えるための取組の推進
〔徳山ダム及び水源地域の役割の情報発信、地域の魅力のアピール、人材の養成・育成等を推進
自然環境の保全、学習、健康、交流等の諸活動のための拠点づくり及び諸活動を支える仕組みづくりを推進〕

推進体制の整備

- (1) 推進準備会の設置
〔推進協議会の運営の検討などビジョン推進体制を整備〕
- (2) 推進の担い手の育成
〔広域の人達の参画を得る観点から担い手を育成〕

取組の試行

徳山ダム

シンポジウム

揖斐川流域の 保全と利活用を考える

— 中部の水と森を次世代へ —

日時

平成 **18** 年 4 月 **18** 日 火 13:30~16:00
開場 13:00

会場

名古屋市熱田文化小劇場ホール

名古屋市熱田区神宮3丁目1番15号

定員

300人(入場無料)手話通訳あり

プログラム

- 13:30-13:35 揖斐川流域の四季の風景スライドショー
- 13:35-14:05 下垣 真希(ソプラノ歌手)自然と川のミニコンサート
- 14:05-14:35 菅原 文太(俳優)による講演
- 14:35-16:00 パネルディスカッション

[交通アクセス]

- JR東海道本線「熱田」駅徒歩1分
- 地下鉄4号線(名城線)
「神宮西」駅2番出口東へ徒歩5分
- 名鉄名古屋本線「神宮前」駅
西口北へ徒歩8分

[MAP]



■主催

国土交通省 中部地方整備局、(独)水資源機構 中部支社

■後援

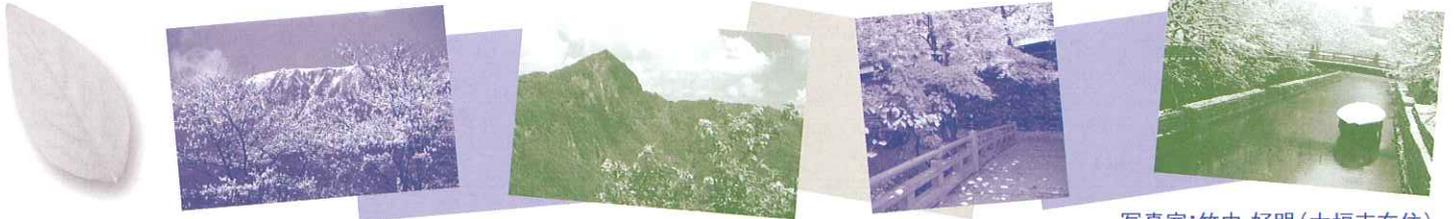
岐阜県、愛知県、三重県、名古屋市、揖斐川町、(社)中部経済連合会、
揖斐川流域住民の生命と生活を守る市町連合

揖斐川流域の保全と利活用を考える — 中部の水と森を次世代へ —

揖斐川流域（徳山ダム流域）は、希少野生動物をはじめ、豊かな自然環境が残されています。この豊かな自然環境の保全と、自然環境そのものの利活用を両立させていくことを目指し、このシンポジウムを開催します。

P R O G R A M

13:30 - 13:35 | 揖斐川流域の四季の風景スライドショー



写真家:竹中 好明(大垣市在住)

13:35 - 14:05 | 下垣 真希 (ソプラノ歌手) 自然と川のミニコンサート

“思い出の歌 美しき自然の詩(うた)”

◆下垣 真希 (しもがき まき)

P R O F I L E

愛知県立芸術大学およびケルン国立音楽大学卒業。コンサート活動のかたわらドイツ国際ラジオ局でDJとして活躍し帰国。2000年、アジア代表としてドイツのハンノーバー万博で独唱。2005年、愛・地球博でもソロコンサートを開催した。国内外のオーケストラと共演するほか、命と平和の尊さを伝えるコンサートや講演で高い評価を得ている。なつかしい日本の歌を集めたCD「じゃぼねすく」などをリリース。

現在、金城学院大学声楽講師・名城大学ドイツ語講師・揖斐川水源地域ビジョン策定会議委員。

14:05 - 14:35 | 菅原文太 (俳優) による講演

◆菅原文太 (すがわら ぶんた)

P R O F I L E

仙台生まれ。早稲田大学中退後、ファッションモデルをしているときにスカウトされ、昭和31年「哀愁の街に霧が降る」でデビュー。平成10年に高山市清見町に移住。

“菅原文太の中部・川の旅”シリーズで「揖斐川に夢をつないで」に出演し、中部地方にも縁が深い。近年は農業政策等に高い関心を示し、多数の講演活動も行っている。

また、この夏公開予定のスタジオジブリのアニメ映画「ゲド戦記」のゲド役で声優を務める。

14:35 - 16:00 | パネルディスカッション

テーマ 揖斐川流域の保全と利活用について



コーディネーター ◆前田 弘司 (まえだ こうじ)

名古屋大学大学院文学研究科修士課程修了後、中日新聞社入社、社会部記者、デスクなどを経て1986年論議委員、現在に至る。専門は地域における社会資本整備とそれにかかわる行財政問題、治水と地震に関連する防災問題。現在委嘱されている公職。中部の未来創造大賞表彰委員、あいち住まい・まちづくりマスタープラン検討委員など。

パネラー ◆宗宮 孝生 (そうみや たかお)

1963年、揖斐川町役場入庁後、土木課長、技術参事兼建設課長、揖斐川町助役を経て、2005年3月より揖斐川町長。

パネラー ◆細見 寛 (ほそみ ゆたか)

兵庫県生まれ。東京大学工学部土木工学科卒業後、建設省 入省。建設省 近畿地方整備局 大滝ダム工事事務所長、内閣府 科学技術政策担当参事官などを経て2005年8月現在、国土交通省 中部地方整備局河川部長。

パネラー ◆菅原文太 (すがわら ぶんた)

パネラー ◆水尾 衣里 (みずお えり)

名古屋大学大学院工学研究科建築学教室博士後期課程を経て現在、名城大学人間学部助教授。専門は建築学、都市計画。他に、国土交通中部地方有識者懇談会委員、愛知県固定資産評価審議会委員など。

応募は、往復はがきで
お願いします。

往復はがきに【はがきの書き方】を参考に記入していただき、4月10日(月)必着でお送りください。なお、定員を超えた場合、抽選となります。
※参加者の氏名と年齢、代表者の住所と連絡先をご記入ください。(往復はがき1通に対し5名まで)

【はがきの書き方】

	●代表者の住所・氏名・連絡先	※往信面の裏に、代表者の住所・氏名・連絡先と参加者の氏名・年齢を明記の上、お送りください。
	●参加者の氏名・年齢	

●お問い合わせ先

〒460-0001 名古屋市中区三の丸1-2-1
(独)水資源機構 中部支社 建設部
☎(052)231-9631

主催 国土交通省 中部地方整備局、(独)水資源機構 中部支社

後援 岐阜県、愛知県、三重県、名古屋市、揖斐川町、(社)中部経済連合会、揖斐川流域住民の生命と生活を守る市町連合